孟齋芳虎画
下

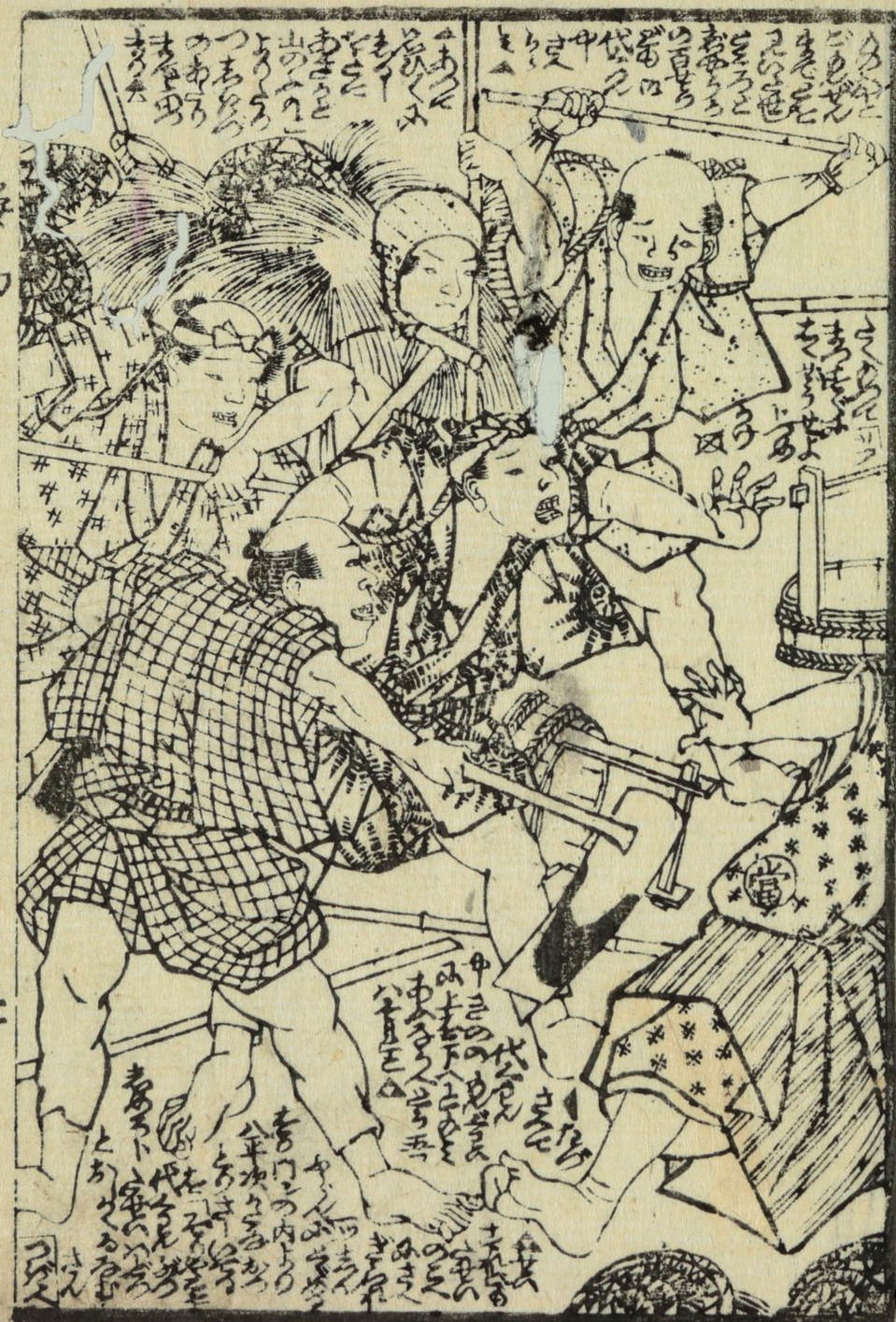
上の巻より
尾形屋

撥衣
つぎ
いとさのど人みん人ゲ
もろうさ多ろ
そのうちかるまちびと
こるそのまもうのあるさる
ゆるさのつまびるどいさん
まくよーあるげるのちちうもんち
のどつまえさもしもぎと
大せうみうへわうさを内へ
あひてあとをまるそのあ
うちわさびのつまみきろ
ゆるとひまのみおりる茶ひ
のをこ十日してさるものうち
みつひのとうあくあーまさ
とのぶろうーうしへうみ
をたまのびのうまれ
ぎあ
撥刀
つぎ
このあとこのそこの世をさたどもまんのの
ものあとそのみをいーうもちうもせうれ
みてご自とときあさだうそみゆまま
われば名ゆまうさそのあさるどみ
ゆーうひぢまそあをとそとかとうち
がくんせへ一日二日とかるうち
えどるの八七日のさへやのゆーがれ
一人ーさびみへやどうーこぎるみ
さぞ一手やとありさもーまとと
ちうもあのさへのみーこまびの
ぶうーどのよと
つぎへ

並木場

代官屋敷の場

用水



近代五柳綴芳虎画

魯文校